



E-mail:honbu@otedama.jp

●お問い合わせなどメールをご利用ください



http://www.otedama.jp

●たまちゃん通信はホームページに掲載

日本のお手玉の会本部

〒792-0013 愛媛県新居浜市泉池町 10 番 1 号



TEL : 0897-32-0302



FAX : 0897-32-0311

【教育新聞「円卓」】

「言葉を超える心」

1歳半の黒人の女の赤ちゃんとの出会い



「ぬくもりを届けたい、手から心へ」は、日本のお手玉の会のスローガン。お手玉が持つ手づくりの温かさを伝える活動を始めて、23年になる。

全国お手玉遊び大会の開催や、幼児、小学生、介護者、お年寄りを対象に、お手玉教室を開くなど、普及に努めている。

また、日本のお手玉の会では、お手玉を持って、海外にも18回出かけた。その都度、思いがけないドラマに出会い、毎回、感動をいただいている。

サンフランシスコのオークランド空港でのこと。ロビーで、いつものように、仲間とお手玉遊びをしていた。

そこに、かわいい黒人の女の赤ちゃんが、ニコニコ顔でやってきた。私たちが、歓迎しようとした途端。その幼女の父親がやってきて、さっと幼女を抱きかかえ、その場を離れようとした。私たちの邪魔になる、と思ったのであろう。

幼女は、父親の腕の中で泣きだした。私は駆け寄っていき、幼女にお手玉を渡した。幼女は泣くのを止め、笑顔になった。

ところが、幼女は、お手玉を私に返した。私は、お手玉を受け取った。驚いたのは、その後だった。幼女は、ニコツとして、かわいい両手をくっつけて、器を作った。

私は、その手にお手玉を返した。幼女は、満面に笑みを浮かべ、お手玉を返す。二人は何度も、お手玉のやり取りを繰り返した。

そばにいた母親に、幼女の年齢と名前を尋ねた。「18か月で、ダーミュです」と教えてくれた。

ダーミュちゃん一家は、私たちより先に、手を振ってゲートに向かった。笑顔のダーミュちゃんの手には、プレゼントしたお手玉が握られていた。

幼女との間に言葉はなかった。が、コミュニケーションに必要なのは、「こころ」であることを、1歳半の彼女が教えてくれた。さわやかな気持ちになり、胸が熱くなった。心の中で「ありがとう」と礼をいった。

このエピソードを、ある小学校での「お手玉教室」の時間に話した。その感想文の多くに、次のようなものがあった。「外国の人とお友達になるには、言葉ができればいけない」と思っていた。でも、その前に、大切なのは『心』だということがわかった。

日本のお手玉の会理事 武田 信之

*この記事は、「教育新聞」(東京)平成26年10月23日付け1面コラム「円卓」に掲載されたものです。

平成26年(2014年)10月23日(木曜日)



言葉を超える心

武田 信之

「ぬくもりを届けたい、手から心へ」は、日本のお手玉の会のスローガン。お手玉が持つ手づくりの温かさを伝える活動を始めて、23年になる。

また、日本のお手玉の会では、海外にも18回出かけた。その都度、思いがけないドラマに出会い、毎回、感動をいただいている。

サンフランシスコのオークランド空港でのこと。ロビーで、いつものように、仲間とお手玉遊びをしていた。

そこに、かわいい黒人の女の赤ちゃんが、ニコニコ顔でやってきた。私たちが、歓迎しようとした途端。その幼女の父親がやってきて、さっと幼女を抱きかかえ、その場を離れようとした。私たちの邪魔になる、と思ったのであろう。

幼女は、父親の腕の中で泣きだした。私は駆け寄っていき、幼女にお手玉を渡した。幼女は泣くのを止め、笑顔になった。

ところが、幼女は、お手玉を私に返した。私は、お手玉を受け取った。驚いたのは、その後だった。幼女は、ニコツとして、かわいい両手をくっつけて、器を作った。

私は、その手にお手玉を返した。幼女は、満面に笑みを浮かべ、お手玉を返す。二人は何度も、お手玉のやり取りを繰り返した。